

KSKQ あかねニュース No. 64

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail: rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

「HELP」の時代(その①) あけましておめでと〜ございます。今年 も「あかね」をよろしくお願ひします〜

正月三日、メンバー十名に、ヘルパーの皆さん、それにスタッフを加えた計二十一名で、石清水八幡まで初詣に行ってきました。

晴天に恵まれそれほど寒くもなく、たのしく、そして面白おかしい一日でした。・・・もちろんガイドヘル活動の一環として。ガイドヘル、正確にはガイドヘルプ。移動支援と訳されています。障害者たちが社会と関わって、学び、楽しみ、それらを通じて社会性・自立性を涵養することの支援を目的として続いてきたこの制度は、2002年(H14)四

月にスタートした『支援費制度』を追い風として一気に普及しました。助成の内容が障害者に手厚かったのです。

助成金の時間単価が高いうえに、利用者の自己負担はなし。ヘルパーさんに対しても比較的好条件で報いることが出来て、うちのメンバーたちも競って手を挙げ、楽しい余暇活動を享受しました。もちろん、あかねに限らず全国の障害者たちが利用した結果、「これほどのニーズ」を想像していなかった国の財源は、一遍に

底をつき、支援費制度は2年とたたぬうちに見直しを余儀なくされました。

2004年三月、ガイドヘル助成金が四月から4割近くもカットされるとの予告を市から受けた私たちは、暗然としました。

ヘルパー給もこれに準じて引き下げない限り、NPOとしてのこの事業の収支バランスを維持できません。やむなく皆さまに事情をご説明し、ご理解を頂戴したものの、幾人かの貴重な戦力が、これを機会に戦列を離れていきました。

この事態は、2006年四月の『障害者自立支援法』施行に伴う利用者の自己負担1割の実施開始に及んでさらに悪化していき、負担に耐えかねた利用者(保護者)たちがガイドヘル活動そのものを控えるようになり、ガイドヘル事業は文字通り『負のスパイラル』

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価 定価 一〇〇円



の様相を呈し始めました。
 事の深刻さを重視した支援団体や支援者から沸き起こるブーイングの高まりに、さすがに支援法の見直しが行われ、ほどなく利用者の自己負担が軽減されたことはご承知の方も多いでしょう。
 ・・・ガイドヘルプ事業は、このような紆余曲折を経ながらも今日まで持続されてきたのです。

ガイドヘルプの目的は、前述のように、利用者の自立支援の一環としての「社会性涵養」(やや抽象的な言い方ですが)を第一義とするものの、派生的というか付随的に、いくつかの効用もあるようです。
 そしていくつかの問題点や課題も。
 効用の一つは、ヘルパーが、活動を通じて障害者のことをいろいろ学ぶ(時に、教えられる!)、場合によっては今まで気がつかなかった自分自身の性格や適性などについての発見をする、謂わばヘルパーに対するヘルプにもなっているということ。
 障害者は社会性(社会の秩序・ルール・仕組みなど)を知り、これに従って行動する。時には何かを我慢する)や自立性(たとえば行き先を自己決定する・食事のメニューを自分で選ぶなど)を養うのですが、彼らを引率するヘルパーも、内心「そうだったのか」と気付いたり知ったりすることが結構多いのです。
 また、彼らを護ったり、何かを弁明したり、頼み込んだりする立場に立たされた時など、「そうか、俺にはこんな折衝力があ

ったのか」などと、あらためて自分に感心したりすることも少なくありません。
 私自身の体験として、ある時ガイヘルをしていて気付いたのは、私自身が、周囲の人に向かつて、「この子は、私の子供ではありませんよ。私は単なるヘルパーです」という意味のメッセージを無意識に発信している、と云うことでした。(若いヘルパーさんには、そのようなことはあり得ないと思います。)
 「○○くん、何が食べたい? ・・・芳川さんに相談しなくてもいいよ。自分で決めなさい。」「○○くん、今日は帰ったらお母さんに何て報告するのかな?」などと、食堂や車中などで、近くの人の視線を意識して、聞えよがしに云っている自分は、もしかして彼との間に一線を引き、客観的な立ち位置に身を置こうとしているのではないか? ・・・そのことに気付いた私は反省し、それ以降はむしろ意識的に、彼らと一緒にのときは彼らを自分の子か孫と思いい、そのように行動することにしました。
 ある日のガイヘルの帰り、妙見山へ出か

ける会社の元同僚と能勢電の車中で出会いました。

その人は、私の私生活のことなど知る由もないので、私と隣に座るKくんが親子だと思ひ込んだのでしよう。そのあと他日に会った際に、「芳川さん、少しも知りませんでした。大変でしようなあ」と、同情と励ましを受けました。

小学生だったYくんと出かけた時は、駅への道すがら会った彼の友達が「Yのおじいちゃんかあ？」と聞いていました。やっと、『ヘルパー』になれたかな、と感じたものです。

もう一つの効用は、ガイヘル活動が、利用者の保護者に対するヘルプという側面も持っている、ということ。

四六時中、障害を持つ子と向き合っている親御さんの心中は察して余りあるものですし、いろいろ片づけたい日常的な事柄が一向にはかどらない苛立ちとか焦りなども多いに違いありません。

短時間とは云え、利用者をお預かりして「ご自分の時間」を創っていただくことで

親御さんが、現実面でのメリット(仕事がかどる!)とともに、気持の余裕と活力を取り戻される一助となっている、と思えてなりません。

誰もが、『ヘルプ』を求める時代、貴重なこの制度をより活用するために、関係者の知恵と力を傾けたいものです。

次号では、ガイヘル活動の問題点や、課題について、もう少し考えてみたいと思います。 芳川 雅美

『町』のあかね

新年スタート致しました。今年もよろしくお願ひします。毎年恒例、あかねらしくバタバタとした始まりとなりました。

昨年インフルエンザの影響で延期となった「あかねまつり」と一年最初のイベント「餅つき会」を併せて開催するという初めの試みとなりましたが、お陰さまで多くの方に寒い中、来ていただきました。子供たちの参加もあり、餅つきと子供の

笑顔にお正月気分を久しぶりに味わいました。

僕が小さい頃には、正月と云えば、お店はすべて閉まり、「町」全体がお正月休みで、賑やかな商店街も静かなものでした。子供たちは、河原で凧揚げし、子供会の餅つきに参加し、「ああ、お正月！」と冬休みを満喫したものでした。

最近では、年末年始休みなく、町は普段通りのリズムで流れ、行事の時だけ、クリスマス「ケーキ食べなあ」大晦日「はい、そば食べなあ」元日「はい、おせち、出来あいやけど食べなあ」と、まあせわしないやら、行事に振り回されてるやら。

大人になったからそう感じるのか？それとも・・・四季折々、人と人との息遣いが感じられたあの懐かしさ、節目のある、古臭くとも何か暖かさを感じあえた、「町」での生活。懐かしい商店街の賑やかさが恋しくなります。あかねも、この川西で『町の作業所』として、人の心通う場所であるように、今年も新たに頑張っていきたいと思ひます。 渡邊 誠

年始に想う

さて、今年はどうな一年に???

久しぶりに日常のあわただしい生活から解放されて、想いをめぐらしてみる・・・が、テレビから流れてくるニュースを見ると、「なんで、こんな情けない日本になったんやろ」とぼやきたくなる。

高齢者の孤独死・・・誰にも見送られずに、寂しく人生を閉じる人が増えているという。

そして、ある人は、自分には子供もいないし、身内もないので遺言に託してお花いっぱい飾ってください。誰にも看取られなくていい・・・という。それって、本当の気持ちなの？

まだ元気な時は、そう思っているも、いざその場において、誰もそばに居ない最後は、どうしても寂しい。

それが家族や身内でなくてもいい。友人

や知人でいい。誰かに「ありがとう、よくがんばったね」と線香を一本でも立ててくれる人が居るほうがいい、私はそう思う。どんな人も役割を持って生れてきていはず、裸で生まれてきて裸で死んでいけばいい、としても人とつながりを持って生きてきたはず。

たとえその人の最後が貧乏であつたとしても、心まで貧乏ではないはず。最後の瞬間に、心まで閉ざさねばならない社会なんて、寂しすぎる。人の優しさ暖かさ復活させたいもの！

昨日(一月十五日)あかねの中谷藤子さんが入院することになった。この二三日誰の目にも映つたのが、彼女の歩き方の変化。「中ちゃんフラフラ歩いてる！なんかおかしいなあ？」病院で診てもらおう。

「最近、頭を打ったとか転んだとかしまっせんでした？頭の中でジワジワ血が固まっているので、すぐ手術しましょう」ということになった。

その日のうちに、手術もうまくいって、周りの人たちも今ホットひと安心。

ここ二三日、病院の付き添い・二十四時間も日常生活の延長でヘルパーさんたちの付き添いで解決し、彼女は安心して治療中。

両親に先立たれた彼女は、あかねで自立生活を始めて一年が過ぎた。多くのヘルパーさんたちの支援を受けて、安心して地域生活を送っている。

この事実も、多くの人のつながりの中で生きていくことの大切さを教えてくれる。一言に、「人を支える」ということは、決して一人では出来ない。一週間に一日だけお手伝いできるよと云う人七人居たらいい。一か月に一回だけなら三十人いたらいい。一年に一回だけなら三百六十五人いたらいい・・・と考えると、人と人が太く細く長く短く、つながっていくことではないだろうか？今日、社会的弱者と云われる人たちが高齢者・障害者・子ども・DV・貧困・・・と多くの人たちが弱い立場で困っている日本の社会において、他人ごとでは済まされないことではないだろうか。

富田 啓子

夢中に過して一年

昨年の二月より、あかねの職員としてお世話になり、約一年が経とうとしています。何もかも初めてのことばかりで、ただただ一生懸命夢中に過ごした一年でした。

一月の餅つきに始まり、妙見山ハイキング・竹の子掘り・バザーや能勢電レールウェイフェスタへの出店・あかね元氣寄席・デイズニールアンド旅行・夏の毎週末の納涼祭出店・それに毎年みんな楽しみにしている徳島キャンプ・秋にはイモ掘りに続き一庫マラソン出店など、一年中盛りだくさんのあかねです。

行事のたび毎に、お手伝いに来て下さるボランティアさん、ヘルパーさん、私たちの行商商品やお弁当を買って下さる学校の先生や個人の方々、新たに販売先として受け入れてくださった老人福祉施設の方々、たくさんの方々に支えられ、あかねの日々は続いています。

先日、年初め恒例の「餅つき会」がありました。朝から、ボランティアさんが続々と集まってくれました。ほんとうに、続々と・・・です。

作業所創立前からずっと見守ってくださっている方から、昨年の一庫マラソンから手伝いに来てくださったという関西大学の学生さん、ボランティアさんの数は職員とメンバーよりも多かったと思います。そんな中、いつも朝一番に来てくださって、お餅つきを中心になってまとめてくださっている岡さん。

夏祭りも、一庫マラソンの出店も、いつもみんなが頼りにさせていたれています。はじめてお歳を伺ったときには、本当にビックリしました。

そんな岡さんはいつも「次のあかねの行事のために、元気でいないといかんなあと思ってるんや!」と云ってくださいます。

その言葉を聞くたびに、あかねがそんな場所であれてよかったと思い、またそんな仲間で居させてもらえることに、喜びを感じます。今年の餅つき会は、昨年秋季に延期になった「あかねまつり」と組み合わせで行わせていただきました。

お餅つきに加えて、うどんやチャンチャン焼きの出店やビール・ワイン、焼きカレー、自然食の販売や、からと村のみなさんが竹炭販売やどんぐりブローチ・竹トンボ作り体験コーナーも設けてくださいました。近所の方たちや保育園の子どもたち、案内を見て電車に乗ってきてくださった方々、たくさんの方たちに参加していただき、ボランティアさん・メンバー・職員それぞれが出来ることをしながら、おいしいものに舌鼓を打ち、イナウインズさんの演奏にあわせて老若男女・障害のある人もない人も共に・・・が自然に形になった日でした。これが、隣近所・街全体に当たり前にある日を希望に抱きつつ、一日一日出来ることをして行きたいとおもいます。今年もどうぞよろしく!

岡田 小月

お出合い情報～あかね行事へのお誘い～

*猪名川町彫刻の道マラソン 5KM にメンバー (中島) (平田) (冨田) 三人がヘルパー
2月21日 (日曜) さんと走ります。

*あかね元気寄席 (昨年インフルエンザの為、延期になった分です。

3月14日 (日) 林家 染二独演会 川西市商工会館 4F ホール

開場 13:30 開演 14:00

入場料 1,500 円

*大坂城リレーマラソンに、メンバー&ヘルパーさんチームが参加 3月21日 (日)

*あかね妙見山ハイキング 3月28日 (日) 10:00 能勢電妙見口駅集合
メンバー・ヘルパーさん・一般の方どなたでも参加可!
参加費用 1,500 円 (入山料・バーベキュー含む)

*あかねバス旅行 4月3日 (土) 4日 (日) 一泊二日
毎年夏に実施していたものですが、今年は春になりました。
行き先・参加費とも未定 (一応、北陸方面予定)

*あかね特製 節分巻き寿司 絶賛予約注文受付中 一本¥400 円

あかねオリジナルカレンダー販売ご協力ありがとうございました!

「一本だけですが、協力させていただきます」という皆さまのお陰で、かなりの量を販売することが出来ました。が、まだ、まだ、残っています。どうぞご一報ください!

編集後記

(初夢)あかね作業所は、自立支援法において「就労継続支援」という障害者の一般就労を目指しての訓練的な福祉サービスを提供している事業所です。ですから、最賃法の圏外、利用者の給料は二十日通所して、一万五千円、働いているんですが、福祉サービスなので自己負担金を払わなくてはなりません。知的障害者の一般就労は、現実非常に難しいです。今の経済社会のものさし(能力)では、無理があります。だったら、別のものさし(作業所)で、憲法二十七条の勤労の権利・義務が具現化(最賃法クリア)出来ないものでしょうか?
内海

寄付金・カンパ・助成金 ご報告とお礼

(2009年12月分)

川下さん 辻本さん
坂本陽子さん
渡邊 勲さん
川西友の会さん
堀 春美・幸美さん
NHK 歳末たすけあいさん
ありがとうございました!

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円